

## 平成20年度学部・附属学校園相互乗り入れ授業報告

岡山大学教育学部・附属学校連携専門委員会

本報は、昨年度に引き続き学部・附属学校連携専門委員会が取り組んできた平成20年度の活動と「学部・附属学校園相互乗り入れ授業」について報告する。その結果、平成20年度は、数的には、昨年度とほぼ同じ授業実績が得られたが、今後の有効な継続のためには、新たに検討しなければならない課題が見出された。

Keywords：学部・附属学校連携，教員養成

昨年度報告したように、本学部・附属学校園では、「学部と附属学校園が、どのように連携を図っていくべきなのか」という教育養成系大学・学部・附属学校園の存在意義を問う大きな課題に、従来から様々な協議会や委員会を組織することで取り組んできた。

平成19年度からは、学部・附属学校連携専門委員会が設置され、相互乗り入れ授業と共同研究のあり方を検討している。以下、平成20年度の本委員会の活動と「学部・附属学校園相互乗り入れ授業」について報告したい。

### 1. 平成20年度附属学部連携専門委員会活動

#### 1. 委員会組織

平成20年度の学部と附属学校園の本委員会の担当者は以下の通りである。

- ・副学部長 森 熊男
- ・学部 佐藤 園 (委員長)
- 平井 安久
- ・附属幼稚園 栗田久美子
- ・附属小学校 上岡 弘明
- ・附属中学校 大塚 仁
- ・附属特別支援学校 佐藤 悦子

#### 2. 委員会活動概要

委員会では、上記の担当者が決定した段階で、昨年度を継承する方向で、以下に示す本年度の活動の方針を確認し、取り組みを進めた。

##### (1) 相互乗り入れ授業の本年度の推進のし方について

###### 1) 理念目的

・昨年度確認された2つの理念目的で、本年度も授業を進める。

##### (2) 相互乗り入れ授業の形態

###### 1) 平成19年度の実施形態

###### ①学部から附属学校園

- A 学部教員の附属学校園での提案授業
- B 附属学校園のカリキュラム計画の要請を受け、学部教員が授業の一部を担当
- C 附属教員の教育実践発表会への学部教育の協力・支援（附属教員の個人ベースの研究への協力）

###### ②附属学校園から学部

- D 附属教員が学部・専攻科の授業の一部を担当

###### 2) 平成20年度の実施形態

・本年度も、昨年度を踏襲し、A～Dの4つの形態で実施する。

##### (3) 具体的な実施方法

①要請が生じた段階で随時学部委員に連絡、対処する。

②連携授業が実施された段階で、実施された先生に、その報告を各校園の委員、学部の委員にしてもらうように連絡する。

③各教員間でなされている連携に関しては、連携を行った報告を各校園の委員、学部の委員にしてもらうように連絡する。

##### (4) 相互乗り入れ授業のまとめ

年度末に、学部委員が実施された授業をまとめ、昨年度同様、学部紀要で実施報告を行う。

## II. 学部・附属学校園相互乗り入れ授業

員会で把握することができた「学部・附属学校園相互乗り入れ授業」は、表1に示す通りである。

以上の方針によって平成20年度に実施され、委

表1 平成20年度に実施された「学部・附属学校園相互乗り入れ授業」

## 【学部から附属幼稚園へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年4月16日	梶谷信之	幼児の運動あそびについての講習	幼稚園教員への講習
平成20年5月2日	梶谷信之	同 上	同 上
平成20年5月18日	梶谷信之	親子の運動あそび	参観日での講義（10：00～、11：00～の2クラスで各30分）
平成20年6月25日	梶谷信之	平成20年度第1回幼児教育実践発表会	岡山県下の幼稚園、保育園からの参加者を対象に講習（約50分）
平成20年11月11日	梶谷信之	運動公園にて50メートル走の参観・助言	
平成20年11月26日	梶谷信之	スポーツテストの参観・助言	

## 【学部から附属小学校へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年4月5日	桑原 敏典	民族紛争について探求させる社会科単元開発	第5回社会科系教科授業研究岡山として開催
平成20年6月6日	田中 智生	平成20年度第1回教育実践発表会	研究協議会での助言者
同 上	菅原 稔	同 上	同 上
同 上	岡崎 正和	同 上	同 上
同 上	平井 安久	同 上	同 上
同 上	桑原 敏典	同 上	同 上
同 上	桑原 敏典	イギリスの歴史教育の特質—カリキュラムと実践の側面から—	第6回社会科系教科授業研究岡山として開催
平成20年8月2日	桑原 敏典	法教育実践交流会	第7回社会科系教科授業研究岡山として開催
平成20年8月22日	安藤美華代	学校不適応児への支援方法	教員研修会（講演）
平成20年10月7日	岡 民子	平成20年度第2回教育実践発表会	研究協議会での助言者
平成20年10月9日	早川 倫子	小学校の音楽科授業参観	院生学部生による授業参観
平成20年11月1日	桑原 敏典	新教育課程における法教育のあり方 <sup>(1)</sup>	第8回社会科系教科授業研究岡山として開催
平成20年11月11日	稲田 佳彦	平成20年度第3回教育実践発表会	研究協議会での助言者
平成20年12月6日	桑原 敏典	新教育課程における法教育のあり方 <sup>(2)</sup>	第9回社会科系教科授業研究岡山として開催
平成21年2月10日	田中 智生	平成20年度第4回教育研究発表会	研究協議会での助言者
同 上	岡崎 正和	同 上	同 上
同 上	菅原 稔	同 上	授業者及び助言者
同 上	桑原 敏典	同 上	研究協議会での助言者
平成21年2月27日	小倉 久和	院生実践授業（教育研究特論V）	院生による授業など
平成20年度 通年	安藤美華代	心の問題に関するコンサルテーション	教員対象
平成21年1月～2月	岡崎 正和	附属小教員との共同研究による算数の実験授業（鈴木隆幸教諭担当）	

## 【学部から附属中学校へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年度 通年 同 上	安藤美華代 教育臨床心理学講座	心の問題に関するコンサルテーション 附属中へのスクールパートナー派遣と指導	教員対象 教育臨床の院生の派遣（週4日）と 院生指導
平成20年10月1日	林 創	心理学って何だろう	総合的な学習の時間～校外の先生方を迎えての特別集中講義～
同 上	佐藤 博志	私がオーストラリア教育の研究者になるまで～目標をもって特技を伸ばそう～	同 上
同 上	山本 宏子	多文化理解に向けて－トルコの音楽	同 上
同 上	高山 芳治	なぜ社会科を学習するのか	同 上
同 上	黒田 英雄	外国で働く	同 上
同 上	桑原 敏典	あなたも裁判官！	同 上
同 上	加藤内蔵進	多彩な季節感を育む東アジアの気候システムとその変調	同 上
同 上	平井 安久	くるっ！ぴたっ！（2枚の正方形）	同 上
平成20年11月18日	桑原 敏典	平成20年度 教育実践発表会	研究協議会での助言者
平成20年12月10日	桑原 晴子	保護者に対する心理教育相談	
平成21年2月18日	宇野 康司	活断層ってなんだろう？	理科教育講座と附中理科教室との連携授業

## 【学部から附属小・中学校へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年度9月 ～平成21年3月	教育臨床心理学講座	「教育臨床心理学専攻」による附属学園への臨床心理的なサポート	月1回の主に保護者・教員向けの心理教育相談

## 【学部から特別支援学校へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年5月15日	大竹 喜久	平成20年度第1回校内研究全体会	研究協議会での指導助言者
同 上	吉利 宗久	同 上	同 上
同 上	仲矢 明孝	同 上	同 上
平成20年6月19日	大竹 喜久	平成20年度第3回校内研究全体会	同 上
同 上	吉利 宗久	同 上	同 上
同 上	仲矢 明孝	同 上	同 上
平成20年7月17日	大竹 喜久	平成20年度第4回校内研究全体会	同 上
同 上	仲矢 明孝	同 上	同 上
平成20年8月27日	仲矢 明孝	校内研修会「特別支援学校の授業づくりと授業検討」	研修会おける講話
平成20年11月13日	柳原 正文	平成20年度第6回校内研究全体会	研究協議会での指導助言者
同 上	大竹 喜久	同 上	同 上
同 上	仲矢 明孝	同 上	同 上
平成20年12月18日	大竹 喜久	平成20年度第8回校内研究全体会	同 上
同 上	仲矢 明孝	同 上	同 上
平成21年1月23日	吉利 宗久	平成20年度附属特別支援学校研究協議会研究協議会での講演	
平成21年3月19日	仲矢 明孝	平成20年度第9回校内研究全体会	研究協議会での指導助言者

## 【附属小学校から学部へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年 6 月 6 日 同 上	永井伸一郎 岩藤 一成	生活科授業研究の实地指導 道徳教育論①	生活科授業の学部生による参観 小学校における道徳教育の実際 同 上
平成20年 7 月 1 日	岩藤 一成	道徳教育論②	
平成20年 7 月 5 日	鈴木 隆幸	算数科授業研究Aの实地指導	
平成20年 7 月 8 日	辰巳 尚之	生活科授業研究の实地指導	生活科授業の学部生による参観
平成20年 7 月12日	鈴木・森金・ 片山	算数科授業研究Aの实地指導	
平成20年 8 月 7 日	辰巳 尚之	小学校生活科B	生活科のねらいや内容について
平成20年 8 月12日	江原・渡邊・ 河田	院生同席の実践発表会授業案検討会	附小で実施
平成20年10月28日	岩藤 一成	道徳教育論③	小学校における道徳教育の実際
平成20年12月20日 ～30日	平山 元士	インドネシア マラン市内の学校における授業実践研究	科研に係わる授業実践研究 (喜多雅一先生)
平成21年 1 月21日	江原・渡邊・ 河田	院生同席の実践発表会授業案検討会	附小で実施
平成20年11月 ～平成21年 2 月	鈴木隆幸ほか	教員研修留学生（ミャンマーの小学校教諭）に対する算数の授業公開	

## 【附属中学校から学部へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年 6 月 7 日	山田 清哉	中等国語科実地研究	
平成20年 6 月 9 日	神頭 亮太	同 上	
平成20年 6 月16日	平櫛 和男	同 上	
平成20年 6 月21日	徳山 智夫	同 上	
平成20年 7 月 5 日	徳山 智夫	同 上	
平成20年12月 ～平成21年 3 月	宮田 昌二	大学院科目「教育研究特論Ⅴ(数学)」に関して院生の授業作りと授業実施のための支援	
平成20年11月11日	橋本 誠治	中学校数学科教育法Bの实地指導	
平成20年11月18日	川上 泰平	同 上	
平成20年12月 2 日	坂本 弥生	同 上	
平成20年12月16日	宮田 昌二	同 上	
平成21年 1 月20日	宮田 昌二	同 上	

## 【特別支援学校から学部へ】

日 付	担当者	行事・講座名	備 考
平成20年10月 8 日	藤井真理子	特別支援実践学特講	中学部の教育について
平成20年10月15日	川口 洋二	同 上	知的障害児教育及び附属特別支援学校の教育の概要
平成20年10月29日	高橋 章二	同 上	小学部の教育について
平成20年11月 5 日	石原 和子	同 上	高等部の教育について
平成21年11月12日	佐藤 悦子	同 上	自立活動について

### Ⅲ. 今後の課題

連携授業に関しては、本年度で4年目ということもあり、多くの授業を実施することができた。

本年度は、連携授業をして頂いた学部教員に、実施後の感想や意見をお願いした所、平成20年10月1日に附属中学校で特別集中講義を担当された3名の先生から次のような感想・意見が寄せられた。

#### A先生

附属中学校の音楽の教員を事前にメールで打ち合わせをし、必要な機器について、確認を取るのが一番の重要事項でした。授業は大変楽しませていただきました。中学生の好奇心はすごいものがあると思います。後日、感想文が送られてきましたが、大学生と比較しても遜色のないもので、驚きました。もっと、高度な話をして、十分理解してもらえたのではないかと思います。

#### B先生

ふだん講義する機会のない中学生を対象にお話ができ、たいへん刺激をいただくことができました。講義内容を中学生に理解しやすいようにするため、わかりやすく編集していく過程は必然的に工夫が必要で、これは大学の自分自身の授業の改善にもつながる良い機会だと思います。学部と附属の交流という点でも良い機会と思いますので、来年度以降もこの特別集中講義が続くと良いのではないかと存じます。

#### C先生

参加する生徒たちも意欲的で、熱心に取り組んでくれました。今後とも是非継続して行ってほしいと思います。そのためには、中学校の教育課程における本講義の位置づけなどを今後明確にされる必要があらうかと思います。昨年度とは実施の学年が異なっておりました。実施する学年によって狙いや内容が異なってくると思います。そのあたりを、附属中学校でご検討いただき、授業を出す教員の方は、そ

の狙いに応じて提供する講義内容を検討していくようなプロセスが必要ではないでしょうか。

これまで、本委員会では、学部と附属学校園で互いに必要が生じた時、「教員間のレベルで連携が図りにくい場合、それにどう対処していくか」と「教員間で図られた連携授業を、委員会としてどのように把握していくか」が大きな課題であり、それを円滑に進めることに力を注いできた。先生方のご協力で、連携授業が4年間継続された結果、前述した二つの課題は、昨年度とほぼ同数の授業を実施することができたことから、ある程度、解決できてきたように思う。

今後は、C先生にご指摘頂いているように、学部と附属学校園の両教員で授業を連携して検討していくという段階に、連携授業を進めていくことが課題になっていかなければならないと考えられる。

最後に、A先生、B先生が書かれているように、連携授業は、教員養成を行っている学部教員にとって、普段は余り経験できない児童・生徒を対象に授業を行える機会になっているのみならず、自らの授業を再考していく貴重な場となっていることが伺える。今後も、多くの先生にご協力を頂き、連携授業を単に「学部と附属学校園が連携する場」とするだけでなく、児童・生徒・学生にとって、また、教員にとってより意味のある経験の場に成長させていくことが、学部と附属学校園の課題となっていくように思う。

### 附記

平成20年度の岡山大学教育学部・附属学校連携専門委員会の構成員は、I-1に記したように、森、佐藤園、平井、栗田、上岡、大塚、佐藤悦子の7名である。ただし、本稿の文責は、佐藤園と平井にある。